

DCIS症例に対して、術後タモキシフェンを使用するのは有用である

Case2

- ER陽性例
 - Van Nuy 2のDCIS ⇒ comedo necrosis(+)
- ⇒術後治療は、**RT+TAM**が必要

NSABP B-24

・5年間の乳がんイベント累積発症率

タモキシフェン群 8.2% vs プラセボ群 13.4%

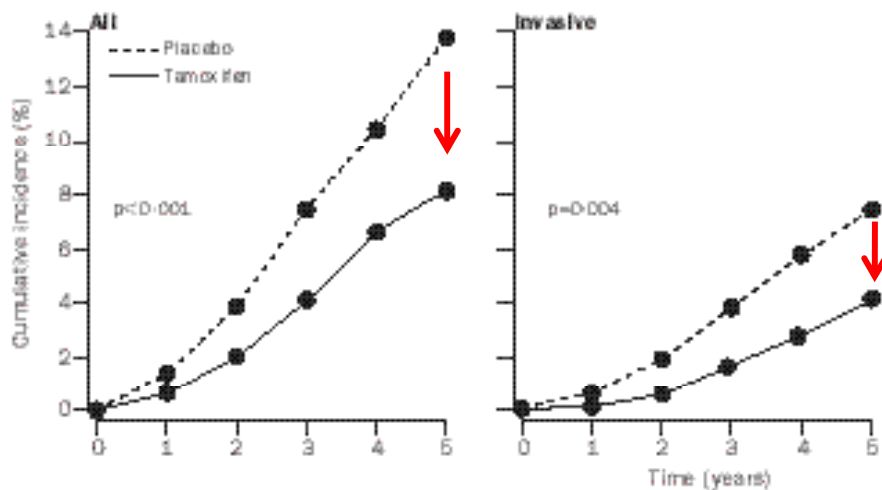
・サブグループ解析

ER陽性例、comedo necrosis症例でタモキシフェンはより効果的

ER陽性例ではプラセボ群に対し、相対リスクは0.41と優位に低下

comedo necrosis存在例では、非存在例に対し2倍発症率を抑制

5年間の乳がんイベント累積発症率



浸潤がん発症も有意差をもって、タモキシフェン群で低下

Lancet 1999 ; 353 : 1993-2000

有害事象

- ・両群とも脳梗塞発症なし
- ・Grade4の有害事象は両群間で有意差なし
- ・子宮体がん発症

タモキシフェン群 0.15% vs プラセボ群0.045%

ただし、死亡症例なし

結語

- ・ DCIS症例でTAM内服で乳がん累積発症率は有意に低下

さらに

- ・本症例では、ER陽性、Van Nuy2のDCIS
- ⇒TAM内服によるさらなる上乗せの効果が見込まれる！！

さらに

- ・有害事象は許容範囲内

⇒本症例の術後治療は、**RT+TAM**が必要！！